

道後温泉地区の将来像に導く 5つの環



環(わ)とは
輪の形をなすもの。まわりをめぐること。とりまくこと。
「輪」が「車輪」のように比較的小さいスケールで使われるのに対して、「環」は「土星の環」のように大きいスケールで用いられる。まちづくりでは、空間・時間・主体など多様な軸をダイナミックかつ有機的につなぎあわせることが肝要であることから、本基本計画では「環(わ)」を道後温泉地区の将来像に導くための中心を成すものと考えた。

7つの対策方針

風景の環	交通の環	時間の環	にぎわいの環	つながりの環
1 道後固有の風景や街並みを活かしたおもてなしの場づくり 道後地区の地形・眺望を活かした空間整備や、道後固有の風景を守り際立たせていく街並みづくりを目指す。 建築物は、耐震改修やリノベーションにあわせファサードに配慮することで、災害時のリスク回避と景観整備を同時に実現する。	2 安全快適な歩行空間の実現 地域資源をつなぐ安全な交通のネットワークづくりを実現するために、駐車場や駐輪場を整備し、道後温泉地区に流入する車両交通を抑え、住民や観光客が安心して生活し散策できるための都市基盤を整備する。加えて、路地や広場の整備により道後温泉地区の回遊性を向上させ、滞留できる空間を実現する。	3 まちなか滞在スポットづくり 日本最古の湯「道後温泉」が培ってきた歴史的な空間を観光資源や地域コミュニティの資産として大切に守り・活用しながら、道後温泉の歴史・文化が体感できるまちづくりに取り組み、質の高い時間消費を実現する。	4 道後ブランドの新たな魅力発信 新規顧客とリピーターに向けた情報発信や様々なプログラムを導入し続け、地域の活性化が持続的・発展的に展開されることを目指す。 5 多様な客層の誘客 インバウンドなど多様化する観光ニーズを的確に捉えながら、道後温泉地区の各エリアに新しい人の流れをつくり、消費を生むことで、地域全体に経済が流れ活性化していく仕組みをサポートする。	6 地元による地域経営 地域主体でまちづくりに参加できる仕組みづくりについてサポートする。 補助金のみには依存しない財源づくりを検討し、持続的かつ先進的な地域経営を目指す。 地域が互いに連携しながら災害に強いまちづくりの実現を目指す。 7 地域を越えた連携による誘客 地域住民だけでなく地元学生や観光客まで巻き込み、市内外及び県内外の他地域と連携しながら誘客促進を目指す。

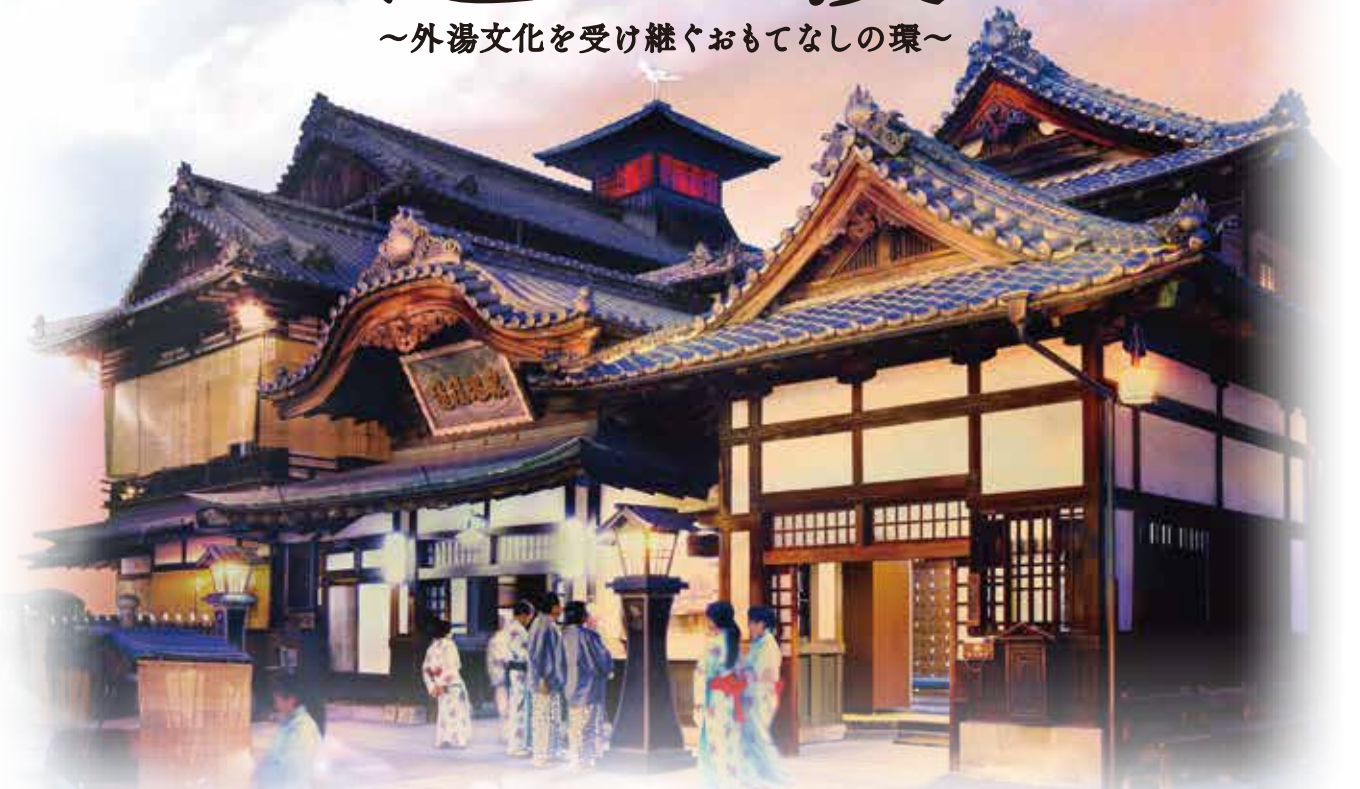
松山市産業経済部 道後温泉事務所 道後温泉活性化担当

〒790-0842 愛媛県松山市道後湯之町5番6号 tel.(089)921-0101 fax.(089)934-3415

百年輝き続ける最古の湯

道後

～外湯文化を受け継ぐおもてなしの環～



道後が育んできたおもてなしの心で、道後特有の外湯文化に代表される風情や伝統を継承・発展させる様々な取り組みを「環」のように幾重にもつなぎ連動させながら、これから百年先まで輝き続ける「新たな道後のまち」を目指します。



新施設イメージ図

3つの重点整備エリア等の整備基本計画

計画策定の目的

日本最古の歴史を誇る道後温泉は、市民の方をはじめ、国内・国外から多くの観光客が訪れ、道後温泉本館と道後温泉椿の湯の入浴客は年間100万人を超え、また、旅館やホテルの宿泊客は、年間90万人にのぼる四国・松山を代表する観光地です。
このたび、次世代に誇れる道後を継承・発展させるため、行政と民間が協働で取り組む『道後温泉活性化計画』を策定しました。



椿の湯

周辺エリア

「日本最古の湯」を再現した空間の創出 「まちの湯」の継承

椿の湯整備
(仮称) 椿の湯別館増築／既存椿の湯改修
周囲を緑で取り囲み「椿の森」の中に湧く温泉として仕立てる。日本最古の湯を再現した、新たな温泉施設の整備に取り組む。

周辺道路景観整備(高質化)
道後51号線／道後47号線

新館西側の路地は、緊急車両の通行が可能となるよう空間を確保する。

電線類地中化整備
道後51号線

椿の湯(既存・新館)外周道路及び本町通りの県道～椿の湯間において無電柱化を図る。

沿道建物ファサード整備
沿道建物の景観をより魅力的にすべく、ファサードを整備する。



椿の湯
整備完成予想図



本館・冠山

周辺エリア

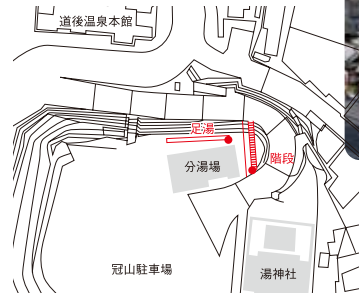
本館を臨む展望スポット 安心して散策し憩える空間の創出

**本館を臨む展望スポット整備
足湯整備**

高い視点から足湯を楽しみながら、本館保存修理工事の状況や、様々な角度からの眺めを楽しむことのできる空間をつくる。

**冠山アクセス道整備
歩行者道の整備**

歩行者の安全性を確保するため、冠山(駐車場)まで景観に配慮した階段やスロープなどを整備する。



道後温泉本館
(空の散歩道より)

現状と課題

- (1)街並み・風景
- (2)交通アクセス性・回遊性
- (3)地域資源の活用
- (4)賑わいの創出
- (5)地域連携

観光客をはじめ、高齢者や身障者等に配慮した魅力的な歩行空間及び景観の形成
観光資源の魅力創出や交通アクセス環境の整備、並びに滞留空間や休憩施設等の不足
歴史的観光資源が有する潜在的な魅力の有効活用
本館周辺施設の魅力向上や消費を誘発するイベント開催、積極的な情報発信
災害に強い、魅力的なまちづくりを推進するための、地域、大学、行政等の連携

楽しく賑わう門前町 歴史をつなぐ空間の創出

ほうごんし
宝厳寺再建(民間)

平成25年8月、火災により本堂および所蔵していた国の重要文化財である木造一週上人立像が焼失した。その後、平成28年3月の再建を目指している。
(平成28年5月再建)

周辺道路整備
道後40号線／道後105号線

建物間を可能な限り結めることでリズム感のある街並みを形成する。上人坂と南北の路地を結び、街路として機能させ多様な回遊動線を創出することを目指す。

電線類地中化整備
道後40号線

上人坂において、歩道を整備し、無電柱化を図る。

沿道建物ファサード整備

温泉街における表参道として相応しい景観形成を目指す。

しょうにんざか 上人坂 周辺エリア



焼失前の
宝厳寺



その他

憩えるオープンスペースの演出 歩きたくなる街並み空間の創出

**宿泊施設等耐震改修に伴う整備
オープンスペースの整備**

前庭空間、オープンテラスなど、憩えるオープンスペースを施設外部に備え、賑わいを街にしみ出させるようにデザインする。生垣・植栽、駐車場の緑化など、街路からの景観を和らげるように敷地前面部を設け、歩きたくなる街並み空間を創出する。

フリッジパーキング等整備

公共駐車場は利便性が悪くバリアフリー対応となっていないことから、本館徒歩5分圏内に約200台の駐車スペースを確保する。



事業スケジュール	計画期間(10カ年)	短期(H27～H29)	中期(H30～H32)	長期(H33～H36)
		椿の湯整備	宝厳寺再建	本館保存修理